

人差し指の指先から大出血しました。まず、どうします？

① 指のなるべく根元の方に輪ゴムをはめる ② 手首に太い輪ゴムをはめる

実際に①のようにして、外来に来る患者さんがいます。

結論をさきに言うと「絶対に輪ゴムをはめたりしてはイケナイ」が正解で、①、②はともに誤りです。刃物で誤って切ったというキズがほとんどで、失礼ながら大出血とはいえ大したことはなく、そのように感じてただけというのが実情です。血がみえてしまうと、とにかくビックリするものなんですね。

指からの出血が重大なできごとになっていくことはまずナイと言えるでしょう。ですからまず落ち着きましょう。それからやることは「圧迫止血」です。これは簡単で、手元にあるティッシュかハンカチで出血部分を圧迫してやるだけです。圧迫を解除しても出血してこないなら、当面の止血は得られたと考えます。

それでは、圧迫止血でも止まるとわかったけど、上記①、②のように念のためにさらに止血してはいけないのか？という問題がありえます。

結論は「イケナイ」です。

チョット難しくなりますが、じつは血管には次の A、B の 2 種類があります。

A 血液を心臓から指に輸送しているのが動脈[つまり発送担当]

B 送った血液を指から心臓に輸送してるのが静脈です[つまり返却担当]

水道管の水が圧力をかけて送られているように、血液も圧をかけて送られてますから[ご存知ですか？それが「血圧」ですヨ]、動脈の圧は静脈より圧倒的に高いのです。輪ゴムをかけるといっても、自信を持って力いっぱいギリギリ巻きにしてきたというのは皆無で、どうしても素人の方がやりますから、タメライながらかけることになることが多く、圧の低い静脈だけが遮断されてしまって、動脈の血流は遮断できてないことが起こりえます。つまり、指に血液は送られているけど、帰ってはこれないから、指には血液がたまる一方になって、赤黒く腫れあがってしまいます[この状態を専門的には「鬱血(うっけつ)状態」といいます]。この状態にいったんなってしまうと、あとでゴムを解除しても後遺症としてムクミが発生して治りにくくなってしまうのです。

(ちなみに、このようなゴムのかけかたは止血にはまったく役に立ってないので、百害あって一利なしですね)

「眼でみえてる出血はたいしたことはない」ということを思い出おこして、「圧迫止血」で十分ですし、それ以上のことはやらないことです。